

高岡HUB計画

内田 和美
KAZUMI UCHIDA

毎週月曜夕方頃に高岡駅地下クルンB1ステージ上で次々と若い学生たちが集まり、和気あいあいの井戸端会議がスタートする。

クルン駅地下街、通りすがりのサラリーマンや近くの学生、OL、子供連れの夫婦の人たちの中には彼女たちの行動が気になるらしく、時折立ち止まり会議内容に興味深く耳を傾けてくる人や、ステージ横の椅子に腰掛けては提案内容にコメントやアドバイスをくれる人たちもいる。

公開プレゼンでもイベントでもただの女子会でもないその不思議な毎週の会議風景は、地元の人たちに「ハブちゃん」、「HUB娘(こ)」など親しみを持って呼ばれ、高岡駅をもっと楽しく笑顔を生み出そうとする芸術文化学部学生サークル「高岡HUB（ハブ）計画」の集まりである。

■HUBの始まり

今から5年前、私が初めて高岡駅(田)に降り立ったとき、「これが駅なのか!?!」をきっかけに、JR西日本の協力のもと産学協同プロジェクト授業(製品評価法「駅作り」)がスタートした。2年間の駅作りは一応の成果を見たものの、駅の活性化という視点では全く不十分で地方都市における賑わい作りの難しさ

を痛感する地域連携授業となった。

その悔しさから活性化とは何かを問い直した結果、学生たちが大学の外で社会の入り口となる遊び場(実験場)が必要なのだという考え方が膨らむこととなる、ちょうどその頃、新生高岡クルン駅舎がスタートしたことにより駅前の状況は一変、クルン駅地下テナント運営の中心人物との偶然の出会いから、駅の活性化計画へ意気投合することとなり、クルン駅地下に学生たちの活動場所を無償で提供していただける話となった。

まさに世は捨てる神あれば拾う神ありというのだろうか…、これにより現在の高岡HUB計画が2013年から正式スタートした。

■HUBS活動

HUBの構成学生はコース別にキュレーションの人数が多いものの、建築、デザイン、芸術といった幅広い分野の学生達からなる、県内よりむしろ県外からの娘が多いのも特徴で、「地域を変えていくのはよそ者、若者、馬鹿者」とよく言われるがまさにその通りである。

HUB娘たちのクルン駅地下活動を見ているとデザイナー本業の自分から見ても論理やセオリーといった概念から逸脱していて、本当にこれで大丈夫なのか?と心配することが多い。今ではむしろ世間一般のセオリーから離れ、興味とやりたいことに真剣に悩み知恵を絞って行動する彼女たちの姿こそが、町の人たちから共感されたり、支持されているのではないかと感じている。今を生きている彼女たちのリアルなワク・ドキパフォーマンスこそ、駅を中心に一体

型のライブ感が生まれ、従来の枠からはみ出たHUBらしさを生み出していることに気づかされる。口は出さずに背後から支援するアイドル応援隊のような気分だが今ではそれほど悪くない。

そんな創造とパフォーマンスの世界を楽しむHUBカテゴリーは 1..イベント 2..ワークショップ 3..公開プレゼン 4..演奏会(ライブ) 5..地域活性PRのためのツール制作(トートバッグ・冊子など)など主に活動を行なってきた。代表例として「高岡トートバッグプロジェクト(2014)」や「北陸新幹線カウントダウンパネル(2015)」などがあるが、高岡市長の出演などのHUBらしいパフォーマンスもあってか、この地高岡でHUBの活動を知る人たちが一気に増えるきつかけとなった(*1)。

TAKAOKA TOTE BAG

NEWS! 商店街トートが完成しました!

高岡市商店街連盟、高岡HUB計画の共同プロジェクトとして、高岡市商店街連盟の各店舗でトートバッグの制作が行われ、高岡市商店街連盟の各店舗で販売されています。高岡市商店街連盟の各店舗で販売されているトートバッグは、高岡市商店街連盟の各店舗で販売されています。

高岡市商店街連盟 × 高岡HUB計画

高岡市商店街連盟 | 高岡HUB計画

*1 新幹線TVステーション動画参照
<https://www.facebook.com/takaokahub/>
videos/33990252284503/

他にも、日本を代表するクラフトイベントの高岡クラフト市場街において、好評な学生プログラムの一つの「まちなかコンシェルジュ(2015)」はHUB活動からスタート、現在では芸文の魅力ある地域型プロジェクト授業の一つになっている。

HUB娘たちの力強い原動力はどこから?とよく尋ねられるが、私が近くで見ていることは大学の授業とは違い単位や履修など関係なく、彼女たちの当たり前、好きだから、楽しいから、一緒に笑顔を共有したいから、というわかりやすい原理がその行動力を支えているように思う。理屈より心や体に届くメッセージを求めて、五感をフルに使い行動力しようとするパワーが地域の元気や笑顔作りにつながる(HUBらしき原動力ではないだろうか)。

5年目の今、伝統と文化が似合う高岡駅周辺で、地域のアイドルHUB娘の姿もこの街に似合うと感じるようになってきた。

